

●第2期3年目(令和2年・2020年度)の事業計画基本方針

指定管理第2期3年目の事業計画の策定では、今期の基本方針を再確認し、1年目の反省、2年目の好調を踏まえ、安定かつより発展的な3年目の事業計画を策定します。
3年目は中間の業務評価も控えており、単なる中間点ではなく、後半につながる魅力ある、かつより意義のある事業を計画し、推進していくようにする。

(再確認) 第2期の青葉区民文化センターフィリアホールの基本コンセプト(提案企画書より抜粋)

“フィリアホール”と“青葉区民文化センター”の二つの顔で～“地域を『繋げる』フィリアホール”～

「文化発信、発表の場を提供するフィリアホールの顔」と「地域連携、協働する青葉区民文化センターの顔」の「二つの顔」を理想として、第1期実績を発展拡大し、区民文化センターに求められる役割を認識し、確実に成果を上げることを目指します。

◎フィリアホールとしての文化事業活動:提案時コンセプト

『文化事業は、「コンサート・シリーズ」と「エデュケーション&コミュニティ・プログラム」の二軸で』

「コンサート・シリーズ」は定着したシリーズを継承し、世界レベルの高品質な芸術を提供し、地域が誇る文化発信拠点を目指します。

そして「エデュケーション&コミュニティ・プログラム」は、本格的なアカデミー系プログラムと幼児・ファミリー向けの企画や区民のニーズに沿った地域密着型企画を実施します。

◎青葉区民文化センターとしての、地域コミュニティ・文化的コモンズ形成の活動:提案時コンセプト

『文化的コモンズ形成への取り組み方針』

地域の課題と向き合い、ニーズを捉え、様々な人々とのネットワークを作り、それを繋げ、音楽で地域を繋げる＝文化的コモンズ形成の牽引役を果たしてまいります。事業の展開とともに、地域の「協働する人財」の育成にも取り組みます。

●キーワードは「ふれあう」「支える」「活動する」「集う」

◎施設運営の基本的考え方:提案時コンセプト

「人財」「施設」「収支」「情報」の4つの柱を運営の軸とし、文化発信拠点として地域の絆をつなげる役割を果たす、適切な施設運営に努めます。

◎令和2年度(2020年)の位置付け

令和2年(2020年)は、初年度・2年目の実績を踏まえ、より安定した施設の運営・事業の計画、展開を図ります。主要となる自主文化事業は、その事業基盤の安定確立のため、企画から券売、実施までの推進体制・販促広報の手法を定着させたいと思います。施設利用の促進と安定稼働と併せて、「**確実な収益**」の確保、安定化をしていきます。

地域事業、協働企画は、基礎は出来つつあり、今年度はさらに発展充実させ、地域連携・地域共同における今後の指針となる体制固めをしていきます。二つの顔の基盤を確立し、今後にもつながる青葉区民文化センターを確立させる年にしていきます。

●鑑賞型事業「コンサートシリーズ」

今年度も自主シリーズ公演20本程度、共催10本程度の前年並み本数で実施します。開催時期も考慮し、適宜適切な広報により、事業収支の安定化を目指します。各公演は「フィリアホール」らしい、高品質なプログラムを充実させ、魅力ある文化事業の発信・充実を図ります。販促広報は早めの対応を心がけ、マス媒体の活用等、多くの方にフィリアホールのコンサートの素晴らしさを伝え、より多くの方が文化に触れていただける手法を確立させます。HPやSNSでは、効果的に公演の魅力を訴求する内容を考えていきます。

●「エデュケーション&コミュニティ・プログラム」

エデュケーションプログラムではアカデミー系プログラムを充実させ、聴いて学べるコンサートを展開し、「生涯学習講座」的な観点の付加も模索します。若手音楽家育成・支援も、2年目に実施した育成事業のように、単なる場の提供だけではなく、出演者自らが「企画や集客」等の運営面も加味したプログラム展開を行います。

コミュニティプログラムでは夏冬のファミリーコンサートは改めて内容の検討を行います。幼児向けのプログラムや夏のオープンデーでは、「マンネリ」にならぬよう、内容を吟味したより良い企画で満足度を上げるようにします。

●地域コミュニティ形成事業

二期目から始めた区民企画は、2年間の実績を基礎に、更なる発展・充実・実施のための施設からの支援強化を図り、区民との「協働型」地域連携事業を行います。地域施設とで形成しつつある「ネットワーク」を発展拡大させ、様々な施設との連携によるアウトリーチや事業協力を実施します。地域のニーズを踏まえ、それに応えて、音楽で地域を繋ぐ青葉区民文化センターの事業体制を定着させます。アーティストの紹介だけではなく、費用負担も含めた企画提案も積極的に行って、地域の色々な場所で、気軽に音楽を楽しめる場を提供していきたいと考えます。

●施設利用・施設運営

利用促進は、空き室広報(HPやロビー掲示)により稼働は向上しており、今後も継承するとともに、利用目的の柔軟化、一時利用対応等での稼働促進も引き続き対応をしていきます。区民企画・地域連携や若手育成事業でのリハーサル室・練習室利用も増加していくと思われ、より地域に開かれた施設利用を進めていくようになります。

運営面では、ご利用人数の正確な把握のため始めた、ご利用者からの申告確認は継続します。また利用申告用紙を利用して、日常的にご意見ご要望を収集するためのご意見欄を設けていますが、再度趣旨をお伝えし、より多くのご意見ご要望を受け取る努力をします。日常的に「ご意見要望」を聴き、皆様の期待に副える運営を目指します。

●施設管理面

日常保守はもちろん、経年劣化の増加による適宜修繕を実施します。取替交換が必要な場合も多くなり、費用を有効的に使用して、「安心安全快適」な施設環境を維持します。また2022年の天井工事の基本設計が始まり、現状調査も行います。光熱水費は、経済状況による単価変動はあるが、LED化推進等の推進、日常的な「節電」「節水」に心がけていきます。

I. 令和2年度文化事業の活動

1. 文化事業活動の基本方針

今年度も、フィリアホールの顔らしい上質な音楽発信と地域密着型企画を展開します。文化を届けるコンサートシリーズは2年間の経験実績の下、より安定した事業運営を心がけます。エデュケーション&コミュニティ分野では、アカデミープログラムの充実、幼児向けやファミリー向け企画のブラッシュアップを図ります。若手育成企画も新たな展開を充実させて実施します。

2. コンサート・シリーズ

フィリアホールが市内を代表する文化拠点との自覚を持ち、ブランドを維持し、区民ニーズに応えた地域が誇れるホールを目指します。高品質な文化芸術鑑賞機会を提供するコンサートシリーズでは、媒体を活用した広範囲への販促告知を実施し、加えてクラシック音楽へのハードルを高く感じている層を含めた幅広い顧客向けに、会報誌や地域への広報などを通してアプローチしていきたいと考えます。

○2020年度の主なシリーズの概要

《女神との出逢い》シリーズ

フィリアホールのメインシリーズ。今年度は昨年からのシリーズ企画となる仲道郁代(P)のシューマン、三浦友理枝(P)はドビュッシーシリーズを展開。また千住真理子(Vn)はバッハの無伴奏を。10年ぶり再登場はギターの女神村治佳織(G)。海外の女神は、フランスの巨匠アンヌ・ケフェレック(P)。若手の女神達には、南紫音(Vn)、更に松田理奈・新倉瞳・岡田奏のトリオが登場。定評あるアーティストで集客を見込みます。

《ただひとつの世界》シリーズは世界最高峰のアーティストによるホールブランドイメージを高める企画。

今年も年間1本に絞り、毎回大好評の正統派ピアニストの重鎮、ゲルハルト・オピッツが登場。フィリアホールならではの最高峰の音楽をお届けします。

《ランチシリーズ》は平日の昼に気軽に上質な音楽に触れるコンサート。毎年6本を開催し、色々な「音色」を楽しめる企画。

今年度も、クラリネットの超絶技巧、あらゆる賞を取りまくるギター奏者、古のフォルテピアノも登場。後半では、タンゴで有名なバンドネオン、人気の若手バリトン歌手、そして、コントラバスとハープのデュオなどです。多彩なジャンルで楽しさを感じてもらえる内容になっています。

《ハイムコンツェルトシリーズ》は国内外の優れた室内楽団によるコンサート。今回は《変革の四重奏(クアルテット)》のタイトルで2つの団体を紹介。野心的なレパートリーとエキサイティングな演奏のフォーレ四重奏団は初登場。みなとみらいホールで大絶賛を博し、満を持してのフィリアホール登場。そして2013年以来再登場となるジュリアード弦楽四重奏団。メンバーが若返り、「今風」になっても、伝統の「ジュリアード・サウンド」は健在です

《ニューイヤーコンサート》ではソプラノの森麻季と古楽器オーケストラのイル・ポモドールの饗宴。ピリオド楽器の名手たちとソプラノのコラボレーションは、新たな年明けを華麗に彩る企画となります。

《特別企画》として、他館との連携公演で実施するコンスタンチン・リフシツによる公演。他館との連携企画ですが、今年度は首都圏8館との連携。横須賀芸術劇場、県立音楽堂に続く3番手。その後、東京文化会館を含む首都圏のコンサートホールで5公演。ベートヴェンソナタ全曲演奏の巨大プロジェクトです。

3. エデュケーション&コミュニティ・プログラム

エデュケーションプログラムでは、アカデミープログラムの一流演奏者によるマスタークラス企画、小さいお子様と家族向けの企画、そしてコミュニティ形成にかかわる地域密着型企画の3つの軸をベースにプログラムを実施します。若手音楽家育成も新たな展開により充実させます。音楽を通じてコミュニティにつながる企画を考えます。

○2020年度の主なシリーズの概要

「ミュージックアカデミー・プログラム」は、音楽を学ぶ優れた才能を応援し、あるいは生涯にわたって音楽を楽しんでいくためのより深い「学び」を提供するマスタークラスやレクチャーコンサートを企画。今年度は多彩な内容による充実した企画を実施します。地域の中高校生向けのクリニック、恒例ドリームコンサートも実施します。

今年のマスタークラスやレクチャー系プログラムでは、定番の指揮者・広上淳一氏による指揮科生徒との公開講座、チェリスト山崎伸子氏のプロデュース企画は例年通り開催。さらに鬼才カリスマチェリストのワークショップ、サキソフォンのマスタークラス。ヴァイオリン前橋汀子氏や「アイルランドの音楽」を紹介するトーク&コンサートを企画しています。地域の管・打楽器を学ぶ中高生向けの「ウィンドアンサンブルクリニック」を開催。内容が充実してきた「室内楽アカデミア(ドリームコンサート)」で若手発掘にも取り組みます。

「キッズ&ファミリー・プログラム」では、プチコンサートやワークショップで、子どもの感性育成に役立つ機会を提供する一方で、保護者層に子どもとの思い出になる時間を提供します。若手アーティストを積極的に起用し発表の場として活用します。夏と冬のファミリーコンサートやオープンでも含めて、企画内容を再度吟味し、ご来場の方にとって、楽しく喜ばれる企画を展開します。

「地域コミュニティ・プログラム」では、協働型企画として区民提案型企画を今年度も公募します。区民の方が立案・実施する地域のニーズや課題を意識した地域密着型企画です。3年目も、中身を発展充実させ、青葉区民文化センターとの協働、地域人材育成のプログラム展開を図りたいと思います。

「フィリア・ジュニア合唱団」は、今年も新入団の地域の小中学生で結成され、運営委員の活動も定着し、引き続き「区民によって企画運営する」活動としてサポートします。各種のアウトリーチ活動も積極的に行っています。

「横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業」による小中学校へのアウトリーチ活動を引き続き継続します。加えて、「地域諸施設へのアウトリーチ活動や提携企画」も、昨年度以上に発展拡大し、費用負担も含め積極的に各施設への企画提案も充実していきます。地域とつながりを充実させる活動を行います。

4. 国内・地域で活動する優れた音楽団体との共催事業の実施

国内外の優れたアーティストによるリサイタル、地域のオーケストラ公演など年間20本程度実施します。従来のネットワークを生かし、ホール主催では実現が難しい幅広いジャンルの文化芸術を提供します。従来貸館で実施してきた優良公演も積極的にサポートします。若手発掘という観点から、各種のコンクールとも連携していきます。

◎令和2年度の鑑賞型事業の基本ラインナップ

コンサートシリーズ					
公演(シリーズ)名	コンセプト	開催日	実施想定月	年間収支(千円)	
土曜ソワレ 《女神との出逢い》	フィリアホールの基本シリーズ。ベテランから若手まで、「女性アーティスト」によるリサイタル	土曜 夜 年8回	4・5・7・9月 11・12・2・3月	収入	14,912
				支出	11,343
JUST ONE WORLD 《ただ一つの世界》	厳選された世界一流アーティストによる高品質なコンサート	平日 夜 年1回	12月	収入	2,601
				支出	2,744
ウィークデーコンサート 《らん・らん・ランチにいい音楽》	休憩なし1時間1,500円。気軽に音楽に触れる機会の提供	平日 昼 年6回	4・7・9月 12・2・3月	収入	2,934
				支出	2,964
神奈川フィルの名手による室内楽 《名曲の午後》	地元神奈川フィルとの連携、客層の拡大にも貢献。共催でも1公演	平日 昼 年1回	6月 (9月共催)	収入	1,154
				支出	776
ハイムコンツェルトシリーズ 《変革の四重奏(クアルテット)》	ホールの音響を最も生かせる「室内楽」編成で、国内外の優れたアーティストによる室内楽の精髓を紹介。	土日 昼 年2回	10月2公演	収入	4,610
				支出	4,040
ニューイヤーコンサート	新年を飾る華やかなソリストとN響のメンバーによる室内オーケストラとの饗宴	土曜 昼 新年	1月	収入	3,184
				支出	3,173
特別企画	他館(首都圏8館)連携プロジェクト	土日 夜 年1回	4月	収入	1,680
				支出	1,409

エデュケーション&コミュニティ・プログラム					
公演(シリーズ)名	コンセプト	開催日	実施想定月	年間収支(千円)	
ミュージック・アカデミー ・プログラム	学生向けマスタークラス、音楽愛好家の方も参加できるレクチャーコンサートなど。多彩なプログラムを用意	平日・土日 昼 年8回	5・7・10(3公演)・11・12・2月	収入	8,941
				支出	9,687
キッズ&ファミリー・プログラム	幼児・ファミリー、高齢者等を対象とした体験イベント。夏冬のファミリー、幼児向けプチコンサート、各種ワークショップ系	平日・土日 年6~8回	5・8(2公演)・10・12・2月	収入	2,395
				支出	3,284
フィリア・ジュニア合唱団	運営委員と講師陣が合唱指導・コンサート企画までを実施。アウトリーチ活動実施	練習随時 年1回公演	練習随時 3月	収入	473
				支出	760
地域コミュニティ・プログラム	区民が企画から運営までを実施。地域課題に取り組む区民企画	土日 昼 年2回	公募による	収入	0
				支出	150
アウトリーチ・プログラム	学校や・福祉施設等へアーティストを派遣、STスポット事業協力	平日 年5回~	学校等と協議 各施設と協議	収入	360
				支出	490

フィリアホール共催公演				
公演(シリーズ)名	コンセプト	開催日	想定公演	
フィリアホール共催公演 ・神奈川フィル ・音楽事務所主催 ・(協力)各音楽コンクール	ホールイメージ向上に貢献できる厳選された質の高い公演 貸館公演同様に施設利用料等は主催者負担。ホール優先確保、メンバーズDMやポスター掲載で広報宣伝・販売をホール側がサポート。	平日 昼 日祝 昼 年10~15	年間10~15本	

II. 令和2年度 地域コミュニティの形成・社会的包摂推進への活動

1. 地域コミュニティ形成への基本方針

第2期の重要なテーマである「青葉区民文化センターの顔」の活動は、2年間の活動で、その基礎的な体制は出来つつあります。そこで得た経験、課題、ネットワークと地域の人財を活用し、今年度も、より充実発展した活動を目指します。そして、今後につながる基盤づくり、基礎固めをする年度にするようにしていきます。「音楽芸術」というアイテムを使いながら、「ふれあう」「支える」「活動する」「集う」場をより多く提供することを目標に掲げ、「地域連携」を明確な柱として、まさに区民と協働した運営活動を目指していきます。

文化事業と連動したエデュケーション&コミュニティプログラムとして、「地域との連携」を担うコミュニティプログラム企画を実施。また地域連携・協働型企画では、今年度も区民企画の募集実施、地域人財の育成、地域施設や団体との連携協働企画などを実施します。若手音楽家育成の視点も取り入れた企画も随時実施していきます。

2. 地域活動で目指す課題の設定

地域活動をするにあたっては、地域の様々な課題へのアプローチを掲げ、具体的には以下のような各項目を設定し、各事業ごとにその活動がどの課題にアプローチするものかを考えながら、活動内容を設定していきます。

★子育て世代へのアプローチ	★青少年へのアプローチ	★シニア世代へのアプローチ
★社会的包摂を考えた人達へのアプローチ	★市民協働	★地域施設連携(コミュニティ)

地域コミュニティ形成・地域コモンズ形成に大切な課題ばかりです。社会的包摂やシニア世代というテーマは広範囲で複雑なものですが、こうした課題やテーマに沿って、様々な活動を展開していきます。

3. 文化事業とも連動する活動

●エデュケーション&コミュニティ・プログラムとの関連事業

文化事業の2軸の一つ、エデュケーション&コミュニティでは、鑑賞型事業や教育型事業に加えて、地域とのつながりを考える「コミュニティ」プログラムを提供します。主にファミリーや幼児向けのプログラムは、「二つの顔」がともに互いの力を発揮し、連携しあう事業活動だといえます。内容も常に吟味精査し、新たに何を提供し、何を感してもらおうかを考えます。

◎令和2年(2020年)の主要な企画

基本的な枠組みは例年通りです。但し、内容や販促、ターゲットなどを吟味精査し、「マンネリ」にならないように再検証した企画の実施に取り組みます。より多くの方に青葉区民文化センターで「音楽」の楽しさ、癒しを感じてもらおうようにします。

企画・対象	目的・概要	時期等	課題(テーマ)
オープンデー ファミリー 地域の人たち	ホールを全館使用して、色々な音楽を楽しめるイベント。子どもから大人、高齢者から障がいのある方など、地域の方にフィリアホールにお越しいただく企画に。聞く、体験する等様々な「音楽」を通して、ファミリーで、1日を楽しんでもらう企画です。区民サポーターの活躍の場としても活用します。	8月	「子育て」「青少年」 「シニア」「コミュ」 「包括」「協働」
ファミリーコンサート ファミリー 地域の人たち	夏とクリスマスに、ファミリー向けのコンサートを実施。「託児所」を開設し、子育て世代も楽しめる時間を提供する。障がいのある方にも積極的に参加できる機会にしたい。今年度は、再度企画の練り直しも含め、新しい形を模索していく。地域の方とともに楽しめるコンサートとして、「音楽」の魅力を伝えたいと思います。	8月 12月	「子育て」「青少年」 「シニア」「コミュ」 「包括」「協働」
プチコンサート 0歳、1歳～3歳向け お母さん	乳幼児とお母さんが楽しめ、お母さんには「ひと時の癒し」を届ける企画として、好評で開催希望も多い。対象年齢ごとに内容を変化させ、吟味検討、改良を重ねて、より楽しめる企画にしたい。また、ホールホワイエ、リハーサル室など、内容に応じた場所の選定や広報も考えて実施したい。区民サポーターの活躍の場でもあります。	4・9月	「子育て」「コミュ」 「包括」「協働」
ワークショップ企画 ファミリー 地域の人たち	手作り楽器体験や父親向けワークショップなど、2年間で様々な企画を実施。今年度も対象や内容を考え、「気軽に音楽に触れあう」趣旨を大切に企画にし、地域の施設との連携も模索したい。サポーターの活躍の場としても活用していきます。		「子育て」「コミュ」 「包括」「協働」
ジュニア合唱団 青葉区の子ども達 地域の人たち	合唱を通して歌の楽しさを学び、年齢を超えたコミュニケーションを身に付け、一方で様々な課題をもった子ども達の居場所として機能させます。講師・運営委員はボランティアで、市民協働事業として推進する。今年度も活動の場を広げていきます。	通年練習 3月公演 外部連携	「青少年」「包括」 「協働」「コミュ」

●市民協働型事業の推進

地域コミュニティ形成の中心となる、「市民協働」型の事業です。2年間行ってきた様々な事業では、区民の力を結集した企画が実施されました。色々なネットワークが形成され、更なる連携の体制もできてきています。更なる発展拡大には、アーティストとの連携、施設による費用負担など、企画する側からも積極的な提案を行っていききたいと思います。

◎令和2年(2020年)の主要な企画

区民企画公募・選定・協力実施	今年度も、地域課題と音楽を軸とした区民による事業企画を募集。その内容を吟味し選定し、実施に当たっては、全面的に活動支援・サポートを行います。年間2本程度を予定し、リハーサル室・練習室等での開催を中心に検討します。	3月～4月	「協働」 「青少年」
チャリティーコンサート (例)あおばノンコンサート	区民有志やケアプラザと連携しコンサートイベントを通して、地域の団体・人・施設を繋ぐ企画。収益はチャリティーとして、災害などの被災地などに寄付を予定。年1回想定	3月	「協働」 「コミュ」 「包括」

●地域連携・アウトリーチ活動

地域に音楽を届けたいという趣旨のもと、地域の様々な施設や団体と連携協力していきます。STスポットを通じた学校訪問はもちろん、色々な場所に積極的に出向く活動を展開します。今年度も、新しい施設との連携協力の場を模索し、更なるネットワークの拡大、新しい事業協力の内容などを模索していきます。

◎令和2年(2020年)の主要な企画

STスポット アウトリーチ	STスポットと連携事業(学校対象)。学校と連携しプロのアーティストを呼んで、音楽の楽しさや素晴らしさを学んでもらう。学校からも好評で、子供の反応が楽しい事業。アーティストと学校を繋げ、実りある時を過ごせるよう努力します。	下期 学校 連携	「協働」
地域施設 アウトリーチ	ホール以外の施設での演奏会企画。区内施設と連携し地域の方に音楽を気軽に楽しんでもらうよう、多くの場所での企画を検討します。		「協働」 「コミュ」
ケアプラザ連携	今年度からは、地域のケアプラザ施設と連携し、順次全施設にコンサートを提供できるような基盤を作ります。社会福祉協議会や区役所とも連携して、内容を確立します。	適宜	「協働」 「コミュ」 「包括」
地区センター連携	地区センターやコミュニティハウス等と連携し、コンサートを開催していきます。地域の音楽家や若手音楽家とも連携し、気軽に「上質な音楽」に触れる機会を提供したいと思います。	適宜	「協働」 「コミュ」 「包括」

●市民協働・人財育成に向けた活動

地域での事業を展開するには、地域の人達との連携が充実していなければなりません。その地域の人財を育成していくことも青葉区民文化センターの重要な役割だと意識しています。

区民サポートの募集・活動支援	区民サポーターを募集し(通年募集)、ホールの仕事をお手伝いしていただきます。接客・マナー研修も実施し、接客のノウハウを得ていただきます。	通年	「協働」
区民企画で育成	区民企画を実施する人には、共同で企画実施していく中で必要な専門的知識やノウハウの研修などを行い、企画終了時には地域で活動できるような人材育成を目指します。	通年	「協働」 「コミュ」
若手音楽家の育成	文化事業の「若手育成企画」とともに、プチコンサートやアウトリーチを通して、若手音楽家の方々には自身で企画プロデュース、集客などの実践を学んでいただける機会としたいと思います。	通年	「協働」 「青少年」 「コミュ」

●市民主体の活動への支援協力サポート

ホール利用申請から本番まで、施設利用責任者、舞台技術スタッフが、詳細な相談・アドバイスをを行います。技術的な提案、舞台設営の方法や進行管理での相談も行います。

チケット委託されている公演の情報(内容、発売日等)を、WebサイトやSNS(Twitter等)で公開し、紙媒体の「イベントカレンダー」等も含めて、利用を強力にバックアップします。

地域の文化活動を行う人財育成・支援活動として、市民団体や地域の方々にとっての相談窓口と人材の育成拠点として具体的な事業項目の検討を行います。

コミュニティプログラムやアウトリーチ活動などで、協力していただける市民団体や音楽家と連携協働して、活動の場の提供だけでなく、地域とのつながりを持てる活動を支援します。

Ⅲ. 施設運営に関する活動

1. 施設運営の基本方針

多くの方々に成果を発表の場、日々の練習の場、そして人々が集える場としてご利用いただき、皆様に喜んでいただける施設であり続けることを目指します。運営の基本方針は、条例他の規程や利用要綱に則り、適正に運営することを前提に、公正公平な利用確保の為、申請・手続き、そしてご利用本番まで、一定のルールをお守りいただくようお願いしていきます。

2. 適正な施設運営管理

◎ 公平公正な施設利用の原則・ルールの徹底

条例及び横浜市市民利用施設予約システム(以下予約システム)に従い、公平公正な施設運営を継続します。ホームページ上の「施設ご利用案内」を、適宜改修し、判りやすく利用しやすい施設を目指します。

「利用要綱」(HPに掲載)に基づく「利用の手引き」や各種「利用案内」(HP掲載)も、常に内容の改編加筆修正を繰り返し、必要に応じ、ご利用者へ配布説明をします。各種の貸出備品の取り扱いも、問い合わせや利用時の説明に対応し、ご利用の方々が、ルールを守って、気持ちよくご利用いただける施設運営を行います。

● 適切な利用料金と利用区分の設定

施設利用料金・利用区分については、別表1のとおり、現行利用料金・利用区分の体系を継続します。

基本利用料は利用申請時に現金でお支払い、延長料金、附帯設備費等は当日に現金でお支払いいただきます。料金納入や返還等の基本事項については、利用要綱・手引きに明記し、利用者には適宜ご案内をします。

● 減免・割引サービスの考え方

利用料減免に際しては通常運営に大きな支障をきたさず、かつ特定団体への優遇とならないよう判断します。

◎ 利用料金の割引サービス

ホール利用者のリハーサル用途でのホール利用の場合は、通常の30%割引でご利用頂く事が出来ます。

またホール空き区分を練習でご利用される方への利用日の27日前～7日前まで受付の場合は通常の30%割引を行っております。

● 利用状況の適正把握

施設利用人数を適正に把握するため、ご利用時の利用人数を終了時に報告してもらいます。ホールでの公演の場合も、主催者・出演者数に加え、出来るだけ受付にて入場者数を把握して報告してもらいます。利用人数報告用紙には、ご利用後の片づけ、清掃などのチェックリストも兼ねています。

3. よりご利用いただくための運営努力

◎ 稼働促進策

● 諸室の稼働(ご利用予約)状況の広報

HPの施設ご利用案内のコンテンツ内から「空き室状況」が確認できます。情報コーナー・練習室ロビーにも、空き室状況を週単位で掲示し、予約の促進を図ります。

● 利用できるジャンル形態の柔軟な運用

リハーサル室での発表会やコンサートのご利用も増えており、今後もご案内を促進していきます。「音楽」を介在させた内容は維持しつつ、利用できる形態にはより柔軟に対応します。また区民企画や地域連携事業、自主の各種企画でのリハーサル室・練習室の活用幅を広げるようにします。

● 抽選後のホール空き日でのリハーサル・練習利用促進

ホールでの、リハーサルや練習利用促進について、公演予定団体はもちろん、コンクール等の出場者向けにも広報を行い、割引サービスを利用した「ホールでのリハ・練習」の機会ができることをアピールしていきます。

● ホール空き日を利用したピアニストの夢・カゲレンの実施

ホールの空いている日利用で定着している「ピアニストの夢」やピアノを使用しない練習の「カゲレン！」は、継続します。最近では常連の方以外にも広まりつつあり、より多くの方にホール利用を広報していきます。

● レコーディングや撮影等の利用促進

ホールでは「撮影・録音・学校法人」を対象に一次利用での制限を緩和し、利用収入確保の観点からも柔軟な取り組みを実施します。抽選後の空き日利用となるため、レコーディングや撮影での利用を予め広報していくことはできませんが、出来るだけ柔軟に対応するようにしています。リハーサル室・練習室での一次利用から、恒常的な利用へ繋がるようにします。

● 夕夜間の利用促進に向けた活動

ホールの夜のコマ、リハーサル室・練習室の夕夜間の利用促進策を継続します。地域の人達を対象とした非営利団体の活動支援にもつながる諸策や働く人たちの練習場所という広報方法を考えていきます。

4. ご利用満足度向上のために

◎ ご意見ご要望・ニーズの把握と対応

意見要望ヒアリングとその後のPDCAサイクルを確立させ、今まで以上にご利用者の声を踏まえて、満足度向上に取り組み、皆様にご利用していただける運営を展開してまいります。

● ご意見ご要望の収集とPDCA

ご利用状況(人数等)の報告用紙の裏面に、自由記入欄を設け、ご意見ご要望を任意提出していただきます。収集したご意見ご要望は、定期的に内容を検討し、対応方針について検討の上、情報コーナー横のボードに回答を掲示していきます。2年間の実績は、徐々に減少傾向にあり、新たな「ご意見ご要望」の收拾策も検討する必要がありますと考えます。

● 附帯設備や備品の充実

利用者サービスの充実を求め、備品・附帯設備の新たな購入等を検討します。利用者の声・要望をお聞きし、諸室の備品・附帯設備の改善を進め、購入ダメではなく既存備品の修理改善等も検討してまいります。

◎ ご利用者へのサポートの充実

● ホール利用時の全面サポートの充実

利用申請から本番まで、担当スタッフによる充実したサポートでは、充実したサポート体制を検証し、屈指の響きのフィリアホールでの本番を、より上質なものに仕上げるようなサポート、提案を行っていきます。

● 利用団体への支援策

提案時に掲げた市民団体の活動支援は、現在HP上の公演カレンダーでの団体やチラシへのリンクやイベントカレンダーでの広報などを行っています。今年度は、どのような内容が「支援策」となり、より地域の活動を応援できるかを改めて考え、出来るものを実現させていきます。

5. 広報・プロモーション活動、情報提供

「既存利用者」と「新規利用者」の2つの軸を持って、広報・プロモーション活動を実施します。HPやSNSの利用を強化してまいります。SNSを普段利用しない層に対しても情報が行き渡るよう、紙媒体(新聞・チラシ・地域情報誌・ダイレクトメール・イベントカレンダー・会報誌)も充実させます。

◎ 広報・プロモーション活動の新たな試み

● 会報誌の作成と活用促進

年4回発行し、メンバーズ会員はもちろん、青葉区内の各施設等へ配布いたします。公演への興味喚起、音楽への興味喚起、さらに施設利用や地域事業の情報を掲載し、青葉区民文化センターの認知度向上、来場促進につなげます。「広告料収入」も見込めるよう検討します。新たなフィリア来場者の開拓ツールとして、より活用策を考え、地域への配布や配架先を模索していきます。

● ホームページ(HP)の改良

全面リニューアルしたHPの更なる充実を目指し、費用対効果の高い改編策を検討実施します。公演情報やチケット販売に繋がる判りやすさの工夫。施設利用案内・説明、諸室予約状況広報など利用者の利便性向上・利用促進に繋がります。時代はネット利用者が増加しており、施設の告知はもとより、券売にもつながる情報の発信、来場促進等のためのHP活用を積極的に行き、新たな情報発信のツール定着を確立させます。

● イベントカレンダーの改良継続

公演情報に特化した情報媒体に変更したイベントカレンダーは、常にブラッシュアップに心がけます。

● チケットWeb予約システムの充実

チケット予約システムの改良は徐々に利用増になっています。販売促進、満足度向上に向けたWeb先行予約での座席指定可能、セット券や学生券の24時間Web予約などの改善をしました。今年度は、その改善部分の告知徹底をし、わかりにくいWeb予約の方法の周知徹底やご案内の徹底により利用促進を向上させます。

● SNS等の活用と環境整備

メールマガジンやTwitterの活用の充実は、スマホ普及に伴い、その効果が広がっています。情報発信策として頻度内容を常に検証しながら充実を図ります。Facebook等sの他のSNS常時の利用拡大も、再度内容、貢献度、事務量、情報の安全性などを検討して一定の方向性を定めていきます。

SNSの活用においては、人権侵害防止や個人情報保護等に細心の注意を払い適切な運用を行います。

6. 年間利用率目標

ホール	74%	自主事業の充実と、地域連携事業での活用、空き枠利用のを促進します。
リハーサル室	88%	現在、平均稼働率は90%近くであり、ご利用者様から高い評価を頂けております。今年度は、リハーサル室・練習室なども、自主事業での効果的な利用を高める等、より安定した諸室の利用率を目指す様々な取り組みを行ってまいります。
練習室1	92%	
練習室2	95%	
練習室3	93%	

令和2年度(2020年度)事業計画

IV. 令和2年度 施設管理への活動

施設及び設備の維持保全及び管理

「総合的なマネジメント力」を発揮し、清掃・衛生管理・保守点検などの業務を的確・スムーズに行い、利用者に安全・安心を提供すると共に、ホスピタリティあふれた快適な施設空間を提供します。

日常的なメンテナンス、保守点検を行い、不具合箇所の適宜必要な修繕が必須です。施設の経年劣化に対処し、運営上支障のある部分の修繕、取替を行います。但し支出は適切な管理の下、故障不具合修繕を適切な費用で効果が上がる方法を模索していきます。

2022年度に予定される天井脱落対策工事に関して、今年度から基本設計を開始します。併せて、舞台設備機構の状況調査、改修改善内容の検討を行い、天井工事と同時期に実施していく計画の素案も作成します。

1. 日常点検と予防保全

予防保全を実現するために、日々使用時の点検(日常点検)と定期的な専門会社による点検(定期点検)を確実に実施し、点検内容を確認・検証することで修繕の必要性を判断します。

日常点検時に発見された不具合は、即時対応の必要を判断した上で、補修・修繕を実施します。補修・修繕を実施した場合は、小破修繕として貴区への報告します。

◎舞台設備保守

年間定期保守計画(別表2参照)を作成し、各所機材の定期保守を実施します。定期保守での不具合や修繕箇所等には、適宜内容を判断し必要な対応を行います。

ホールやリハーサル室等のピアノは、定期保守・定期調律を実施します。特にホールで使用するスタインウェイは、使用時に調律が必須、ヤマハは利用者の調律任意を継続し、管理者側で年3回の調律を行います。

舞台設備、備品も、経年劣化が進んでおり、公演本番に不具合が発生するリスクが増加しています。大規模改修は天井工事時に行う予定にし、緊急対応は適宜実施し、メンテナンスを強化します。

◎小破修繕への考え方

経年劣化部分の全体的な洗い出し状況調査を実施します。2022年の天井工事実施に合わせて実施する基本計画も策定します。費用を有効的に使用して、「安全快適」な施設環境を維持していくようにします。工事修繕が比較的高額になっており、全面交換が必要な機材の場合は新規リース等も視野に入れ対応していきます。

◎光熱水費について

「光熱水費」については、LED化による電気使用量の削減を進めています。ビル全体で新電力会社からの電気を導入していますが、電気料金単価も変動しており、使用量以外の要素で費用が変動する傾向です。施設側では、今後もLED化や水道設備での節水対応など使用量削減に向け、各種対応をしていきます。

2. 清掃、美観管理業務の方針

上質なコンサートホールとしてのグレードを維持するためにも、施設の美観を維持し利用者に不快感を与えることのないように務めます。各所で経年劣化・汚れが目立ってきます。適宜必要な薬剤や清掃用具を適切に使用して適宜適切な清掃を行います。

3. 備品管理

備品台帳により、備品及びリース品を管理します。

ホール附帯設備備品の使用は舞台スタッフにより貸出及び収納の管理を徹底します。リハーサル室他の備付備品はご利用者への貸出返還の管理を徹底します。貸出備品は需要に応じ、新たなものの導入も検討しています。

4. 防火防災・防犯への取組み

● 非常時対応マニュアルの整備

当施設は、商業ビルの中に位置しており、館内には不特定多数の方の利用が前提となっております。共同防火管理体制下の一員として、緊急時には所定の指示に基づき、スタッフが行動します。青葉区民文化センターとしての「非常時対応マニュアル」を整備し、緊急時に対応を行います。防犯対策については、ビル警備保安体制との連携を密にし、適宜適切な対応を心がけます。

5. 運営組織の構造：少数精鋭による総合力を発揮する人材の配置

別紙：組織図・名簿参照

● 少数精鋭の「フィリアスタッフ」

親切丁寧な対応体制を最優先に組織を構築します。事務所スタッフは責任者を含む8名、舞台スタッフは3名で構成します。カウンタースタッフも含め、フラットな組織構造を目指し、共同事業体各社のスタッフ全員で、一体感を生み、少数精鋭の「フィリアスタッフ」として機能し、ご利用者へのサービス向上、より良い接遇をするようにします。

● スタッフを対象とした各種の研修・ミーティング

研修やミーティングにより課題の共有、能力のブラッシュアップアップを行います。代表企業の個人情報・コンプライアンスの研修も定期的実施。ミーティングは適宜実施し、意見交換、課題解決の模索等を行っています。さらに、基本の接遇、クレーム対応、高齢者対応などのテーマに沿った研修を適宜実施し、区民サポーターにも参加してもらっています。

個人情報保護教育	1回/年	接遇研修	適宜	事務所ミーティング	毎月
コンプライアンス研修	1回/年	テーマ別研修	適宜	カウンターミーティング	四半期
コンプライアンスチェック	毎月	他施設訪問研修	適宜	レセプションミーティング	四半期

「別表1」【青葉区民文化センター・フィリアホール施設基本使用料一覧表】

【単位：円(税込み)】

ホール利用料金

(要綱第15条)

用途	曜日	区分	(9時～10時)	10時～12時	13時～17時	(17時～18時)	18時～22時	
			※調律のみ					
ホール口 500席 1階384席 2階116席	入場料 徴収	平日	時間帯料金	(6,800)	18,500	37,500	(10,000)	41,500
			10時～17時		56,000			
			13時～22時		79,000			
			10時～22時		97,500			
	録音・撮影 (営利目的)	土日 休日	時間帯料金	(8,000)	21,500	46,500	(11,500)	46,500
			10時～17時		68,000			
			13時～22時		93,000			
			10時～22時		114,500			
	入場料 無料	平日	時間帯料金	(4,000)	10,500	22,500	(6,000)	24,500
			10時～17時		33,000			
			13時～22時		47,000			
			10時～22時		57,500			
録音・撮影 (非営利・個人 趣味利用等)	土日 休日	時間帯料金	(4,800)	13,500	28,000	(6,500)	27,500	
		10時～17時		41,500				
		13時～22時		55,500				
		10時～22時		69,000				
楽屋	楽屋1、2(18㎡)	10時～17時		500	800	(200)	800	
	楽屋3、4(26㎡)	13時～22時		800	1,100	(200)	1,100	
	楽屋5(36㎡)	10時～22時		1,000	1,600	(400)	1,600	

別表2 リハーサル室・練習室利用料金

(要綱第15条)

名称	面積定員	曜日	10:15～12:15	12:45～14:45	15:00～17:00	17:30～19:30	19:45～21:45
リハーサル室	(71.5㎡)	平日	2,350	2,350	2,350	2,700	2,700
	(80人)	土日・休日	2,850	2,850	2,850	3,000	3,000
練習室1	(24㎡)	平日	600	600	600	650	650
	(10人)	土日・休日	700	700	700	750	750
練習室2	(24㎡)	平日	600	600	600	650	650
	(10人)	土日・休日	700	700	700	750	750
練習室3	(27㎡)	平日	650	650	650	750	750
	(10人)	土日・休日	800	800	800	850	850

別表3 ホールの練習・リハーサル使用料金

(要綱第15条・利用細則第5条)

用途	曜日	区分	(9時～10時)	10時～12時	13時～17時	(17時～18時)	18時～22時	
			※調律のみ					
ホール 500席 1階384席 2階116席	練習利用 割引適用 の30%減免 後	平日	時間帯料金		7,350	15,750		17,150
			10時～17時		23,100			
			13時～22時		32,900			
			10時～22時		40,250			
	土日 休日	時間帯料金		9,450	19,600		19,250	
		10時～17時		29,050				
		13時～22時		38,850				
		10時～22時		48,300				
	リハーサル 利用 割引適用 の30%減免 後	平日	時間帯料金		7,300	15,700	(4,200)	17,100
			10時～17時		23,000			
			13時～22時		32,800			
			10時～22時		40,200			
土日 休日	時間帯料金		9,400	19,600	(4,550)	19,200		
	10時～17時		29,000					
	13時～22時		38,800					
	10時～22時		48,300					

別表2

維持管理年間計画(通年)

	業務	内容	頻度	実施詳細
機械設備	空調設備総点検		1回/年	全室空調設備の総点検
	空調設備フィルター保守	定期点検	1回/年	事務所空調機フィルター清掃
舞台設備等	舞台設備保守管理点検	定期点検	3回/年	舞台吊物等メンテナンス
	照明設備保守管理点検	定期点検	2回/年	舞台照明設備メンテナンス
	音響設備保守管理点検	定期点検	1回/年	音響装置メンテナンス
	ITV設備保守管理点検	定期点検	1回/年	映像設備メンテナンス
	ホール客席保守点検	定期点検	1回/年	指定業者により実施
ピアノ保守等	ピアノ保守管理(ホール) (スタインウェイ2台)	定期点検	各1回/年	納入ピアノメーカーの技術研修を受け、保守管理に精通した技術者による保守点検
	ピアノ保守管理(ホール) (ヤマハグランドピアノ1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(リハーサル室) (ヤマハグランドピアノ1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(楽屋3) (ヤマハアップライト1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(練習室2・3) (ヤマハアップライト2台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ調律(ホール)※1 (スタインウェイ2台)	調律	使用時	納入ピアノメーカーの技術研修を受け、保守管理に精通した技術者による調律
	ピアノ調律(ホール)※2 (ヤマハグランドピアノ1台)	調律	3回/年	
	ピアノ調律(リハーサル室)※3 (ヤマハグランドピアノ1台)	調律	6回/年	
	ピアノ調律(楽屋3) (ヤマハアップライトピアノ1台)	調律	6回/年	
	ピアノ調律(練習室2,3) (ヤマハアップライトピアノ2台)	調律	6回/年	
清掃等	日常清掃業務	—	毎日	施設内清掃
	定期:床洗浄・ワックス塗布		1回/3ヶ月	
	定期:カーペット洗浄		1回/年	
	定期:窓ガラス(内面)		6回/年	
	特別:状況により		1回/年	汚れ、劣化の状況により実施
環境管理	ホール環境測定(空調・温度)		4回/年	空調・温度環境測定
	ホール環境測定(照度)		2回/年	照度測定
	害虫駆除※4		2回/年	バーカウンター等の害虫駆除
小破修繕		—	適宜	

※1:ホールスタインウェイグランドピアノは、定期保守調律以外に、使用時に調律必須(施設利用者負担)・自主は管理者負担

※2:ホールヤマハグランドピアノは、定期保守に加えて、年3回は調律を実施。(なお原則として、施設利用者の使用時の負担なし・調律希望の場合は有料)

※3:リハーサル室ヤマハセミグランドピアノは、経年劣化を考慮し、定期調律に加えて、年6回は調律を実施。

※4:環境管理中の害虫駆除は、定期清掃時に年1回実施。必要に応じ、1回追加する場合がある。

※ビル法定点検・測定及び防火対象物点検等はビル側にて実施。